

## 生き物

## 不幸な猫を増やさない！ 3月22日は「さくらねこの日」 東京・練馬で猫シンポジウム

2019.3.13 06:00

ツイート 反応

おすすめ 501

スゴい! 10



NPO法人「ねりまねこ」の看板的存在でもある「カップちゃん」。見ての通り、個性的な白黒模様で多くのファンを持つ人気者。右耳はサクラの花びらのようにカットされ、亀山夫妻に温かく迎えられた「さくらねこ」だ。（NPO法人ねりまねこ提供）



「猫ブーム」という言葉が日本中を騒々しく駆け回り、ここ数年来日する外国人旅行者までもが「猫目当て」ということも珍しくない。かわいい猫に「SNS映え」や「癒やし」だけを求めて、多くの人々が飛びつく今。果たして全ての猫たちが

が幸せに暮らしているだろうか。答えは「NO」だ。

多頭飼育崩壊や、無責任な遺棄で数多くの猫たちが命を落とし、生き延びても「ふん



W

Adobe  
1ラ

ピックアップ



尿」や「鳴き声」などを迷惑だとして捕獲され、里親が見つからなければ殺処分という事も。猫たちがこのような悲惨な状況に置かれるようになった原因の一つは、やはり「増えすぎ」なのだろう。メス猫は年に2～3回出産する事ができ、平均して1度に4匹前後の子を産むという。その子たちも生後半年で繁殖可能な体になる。ねずみ算ならぬ、ねこ算、だ。



増えた猫たちが地域住民の不快感の対象になってしまったら、それが「ノラ猫トラブル」の始まりだ。害獣のように追い立てられた拳げ句、虐待という形で殺されてしまう猫…。そんな悲しい事態をなんとかしようと奮闘する人々がいる。

東京都練馬区で公認を受け地域猫活動を行っているNPO法人「ねりまねこ」で理事長を務める亀山知弘さんと副理事長の嘉代さん夫妻だ。飼い主のいない猫たちが、地域で安心して生きていくことができるよう、住民への理解を推進し、猫には適正な不妊手術を施し、増えすぎない環境を守る「TNR活動」を行っている。2014年から、ボランティアで、だ。



パワフルな活動は同じ願いを抱く同士を集めるのか、9日、練馬区の「Coconeri (ココネリ) ホール」で行われたシンポジウム「解決！猫トラブル 不妊去勢手術で増やさない」には、「公益財団法人 どうぶつ基金」の佐上邦久理事長、獣医師の稲垣将治氏、「NPO法人 ねこけん」の溝上奈緒子代表、地域猫活動アドバイザーの石森信雄氏らが出席、講演やパネルディスカッションに約360人の参加者が耳を傾けた。

に約360人の参加者が耳を傾けた。

## 3月22日は「さくらねこの日」



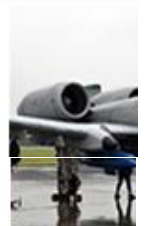
冒頭で講演を行った佐上氏のどうぶつ基金は1988年の設立以来「犬や猫の殺処分ゼロ」を目指して様々な取り組みを行ってきた。不妊手術を終えた猫の耳先を、目印としてさくらの花びらの様にカットした「さくらねこ」の呼び名を世に広めた事でも知られる。行政や全国の協力病院とタッグを組んで年間2万匹の不妊手術を無料で行っている。3月22日を「さくらニャンニャン」の



進研ゼミ  
高校講座

マンガを見  
検定対策！  
届け

産経スペシ



産経ニュー

- ・ピエール
- ・文大統領
- ・リクシ
- ・判事、時
- ・保険が完

今週のトピ



語呂合わせで「さくらねこの日」としてPRするなど、猫を思う活動は多岐に及ぶ。

佐上氏はノラ猫トラブルについて「地域猫活動の認知不足も原因の一つ。そもそも、地域猫活動が行われる場所は、紛争状態、にあります」と話す。猫に対する理解の有無で住民間の意見が割れ、自治会などのコミュニティにも影響を及ぼすのだ。猫に給餌するなどの行為により、負い目を感じる事を強いられた人々に、人間の出したゴミの処分や清掃といった過度の要求を強いる事例もあるという。人間の問題まで猫の責任にしてしまうとは、情けないにも程がある。《次ページへ続く》

スゴい! この写真がスゴい!



iRONNA

